

第8代九州地方会会長挨拶

この十年を振り返ってみて

長崎大学医歯薬学総合研究科
小児歯科学分野 教授 **藤原 卓**
(第8代会長 平成16年4月～平成18年3月)



日本小児歯科学会九州地方会の30周年誠にありがとうございます。平成14年に大阪からここ長崎大学に赴任してきて、あっというまに11年が終わりました。月日の経つのは早いものです。小生が地方会の会長を務めさせていただいたのは、平成16年から18年にかけてでした。教授になったばかりで、まだ事情がよくつかめないうちに九州地方会の会長を仰せつかり、亡くなってしまった瀬尾先生にきつく叱られたのが、心に残っております。思い起こせば未熟な小生を叱咤激励していただいたものだと感謝しておりますが、その恩返しができなくなってしまったのはとても残念です。

おそらく当時の不手際で会員の皆さまには多くのご迷惑をおかけしたことと思います。改めてこの場を借りてお詫び申し上げます。

さて、振り返ってみるとこの10年で九州地方会も大きく変わりました。小生が教授になったのを皮切りとして、鹿児島大の山崎先生、九州大の野中先生、九州歯科大学の牧先生、福岡歯科大学の尾崎先生と九州の5大学の教授が全て入れ代わりしました。また東北大学の福本先生や新潟大学の早崎先生が、九州地方会から日本全国に飛躍をとげられて、教授となりました。4月から徳島大学の教授になれる岩本先生も長崎大学から九州大学を経ておられます。さらに山崎先生は昨年より、日本小児歯科学会の理事長を務めておられ、日本の小児歯科学会の中で、九州地方会は非常に重要な役割を担っていると思います。

地方会の大会も10年で二回りしました。その中で、新しい試みが行われ、それぞれ一定の成果を上げてきたと思います。長崎で平成19年に小生が主催させていただいた際には、全国障害者歯科学会と同日に近隣の会場で開催し、前日の懇親会を合同で行いました。地方会にはなかなか来られない北海道など遠方の先生がたが顔を見せて下さいました。平成23年の小倉では、中四国地方会との共同で開催されました。これも大成功で、医師、歯科医の国会議員を招いたディスカッションが印象的でした。さらに昨年の長崎の大会では、初の女性大会長、準備委員長という体制で企画が立ち上げられ、男女共同参画という近年のトレンドに沿った大会となりました。学会当日の託児所が非常に高く評価されたことが印象的でした。大会長を務められる予定であった中村則子先生が急逝されたため、最終的には実現しなかったことはとても残念です。

10年を経てみて、「九州は気候も人も熱い」と感じます。これからもその熱さで日本のいや世界の小児歯科を牽引して行きましょう！